（チェルマン）、横濱、くろしほぐさ▲C. Wrightiana, Harv. 下田、野母崎、琉球、其他、ちゃしほぐさ▲Codium elongatum, J. Ag. 九州、四國、本州、其他、ながみる▲Cod. Lindenbergii, Bind. 横須賀、ひらみる▲Cod. mucronatum, J. Ag. var. californicum, J. Ag. 江ノ島、天草、みる▲Cod. tenue, Kuetz. 天草、（チェルマン）、じゅとみる▲Enteromorpha lingulata, J. Ag. 野母崎（チェルマン）▲E. micrococca, Kuetz. 函館（チェルマン）▲Halicoryne Wrightii, Harv. 野母崎▲Halimeda papyracea, Zanard. 天草 ○褐藻類 PHAEOPHYCEAE.——Coilodesme bulligera, Stroemf. f. fucicola, Yendo. 堪察加（チェルマン）▲Chordaria filiformis, Yendo.（＝Haplosiphon filiformis Rupr.）白令海（チェルマン） ○紅藻類 RHODOPHYCEAE.——Galaxaura Schimperi, Decsne. 野母崎（ペーテルセン）

前ニ掲ゲタルチェルマン氏ノ肖像寫眞ハ「ウェガ」號横須賀在港中同氏ガ佐波一郎氏ヨリ受ケタル好意（旅行、植物採集、標本調製等ノ幇助）ヲ感謝シ歸國後佐波氏ニ贈リ來リシ原寫眞ヲ複寫シタルモノナリ

引證 (1)佐波一郎氏談話 (2)野口保興、地理汎論探檢ト地理學（明治四十三年） (3)大日本文明協會、北極（大正三年） (4)The Great White North: The Story of Polar Exploration by H. S. Wright. (5)白井光太郎、増訂日本博物學年表（明治四十一年） (6)松村任三、改正増補植物名彙（明治二十八年） (7)松村任三、帝國植物名鑑、上巻隱花部（明治三十七年） (8)遠藤吉三郎、海産植物學（明治四十四年） (9)岡村金太郎、日本藻類名彙、第二版（大正五年）

○朝鮮産松柏類ノ種類ト分布（承前）

理學博士 中井猛之進

てうせんごえふハ名ノ示ス如ク朝鮮ガ其本家ニシテ南ハ智異山ヨリ北ハ咸北、平北ニ及ビ尚ホ國境ヲ越エテ鴨綠江流域ノ滿洲側並ニ琿春地方ニモ生ゼリ此樹ハ甚ダシク乾燥ニ耐ユルヲ以テ朝鮮ニ於テハ赤松、からまつト共ニ造林用松柏類ノ三鼎足ヲナス我邦ニモ信濃アルプス、甲信アルプス、日光山彙等ニ自生スルハ人ノ知ル所ナリ其毬果ハ重ク水中ニ落レバ沈下ス木鼠ハ好ンデ其種子ヲ食フ材ハ柾目正シク割レバ二間餘モ正直ニ裂ル事

恰モ竹ヲ割ルガ如シ朝鮮産松柏類中最良材ヲ供ス又其種子ハ朝鮮料理ニ缺クベカラザルモノニシテ鮮人ハ之ヲ食ヘバ氣力ヲ增シ長命スルヲ信ジ「良妻ハ夫ニ松ノ實ヲスヽム」ノ諺サヘアリ如何ナル處ニ生ズルモ亭々タル直幹ヲナシ金剛山ノ頂界線ノ岩上ニ生ズルモノヽ如キハ遠ク之ヲ望メバ宛モ竹カト怪マル

●ひめこまつ ハ僅ニ鬱陵島ニノミ生ズ本來大木多ク余ハ南陽洞ニ於テ高サ百二十尺許幹ノ直徑目通リ四尺許ノモノヲ見タリ以前ハ此島ノ主要樹ノ一タリシモ年々巨濟島其他ノ土人ガ古船ニ乘リ來リテ此樹ヲ伐リ之ヲ割テ船ヲ作リ此新



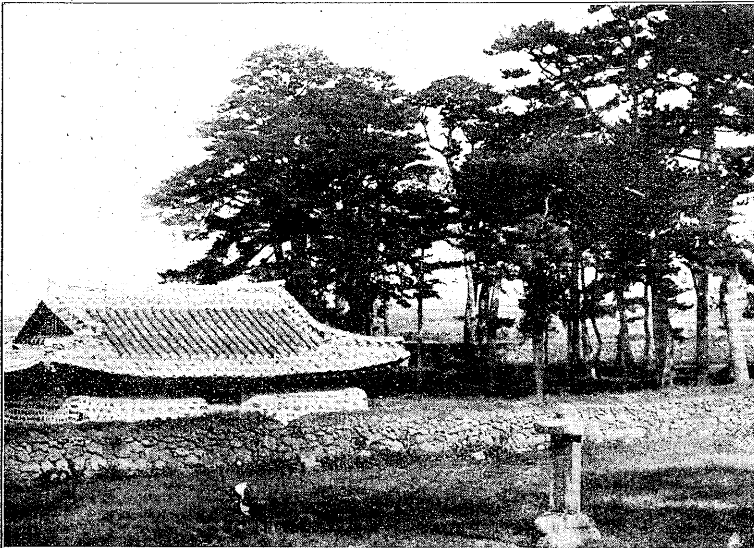
鬱陵島南陽洞ノ山奥ニ殘存スル島内第一ノひめこまつ
(Pinus parviflora, Sieb. et Zucc.) ノ老樹ナリ、向テ
左ニ立テル鮮人ト比較シテ其大サヲ想見スベシ

造船ニ乘テ去リ斯クシテ年ヲ經シ爲メ漸次ニ其數ヲ減ジ今ハ只岩角若クハ山脊ニノミ僅ニ其餘喘ヲ保ツニ過ギズ是レ誠ニ惜ムベシトス

●はひまつ モ亦分布ノ廣キ種ニシテ北部ノ高山ハ白頭山ヲ除キ大凡五千尺以上ノ山ニハ生ゼザル處ナク中部ニアリテハ、金剛山、雪岳山ニ至リテ盡ク國外ニアリテハ北ハバイカル地方ヨリカムチャッカニ達シ我國ニテハ樺太、千島、北海道



成鏡南道ト平安北道トノ界ニアル鷲峯ノはひまつ(Pinus pumila, Regel.)林ナリ之レニ混生スルひのき樣ノ葉ノモノハにほひねずこナリ



濟州島濟州城外三姓穴ノくろまつ (Pinus Thunbergii, Parl.)林ニシテ約二百餘年ヲ經タル老樹ノミナリ而シテ該樹ハ概ネ移植品ニ係ル



鬱陵島羅里洞（ラリコル）ニアルつが（Tsuga Sieboldii, CARR.）
自生品ニシテ二株トモ目通リノ直徑三尺餘アリ

ヨリ本州ノ中央山系ニ達ス　●**くろまつ**ハ濟州島ニノミ自生シ近時ハ栽培品ト混ジテ自生品ト區別スルニ困ムモノ多シ南部ノ群島並ニ本土ノ南部ニアルモノハ何レモ移植品ニシテ老木トナルコト內地ト異ナルナシ造林用ニ植ヱタルハ平安南道ノ南部ニアル中和ニ於テモ能ク生育シ相當ノ發育ヲ遂ゲタリ　●**にほひねずこ**ハ朝鮮並ニ滿洲ノ特產ニシテ狼林山系、鷲峰連山、周峰連山ヨリ南ハ金剛山、雪岳山ニ至リ中央脊梁ニノミ限ラレ滿洲モ其連繫ト見ルベキ周峰ノ北ニ當レル十三道溝ヨリ十五道溝ニ亙ル間ニノミ生ズ極メテ密生シ易ク北部ノ山地ニアルモノハ匐松林ヨリモ通過ニ困難ナリ葉ノ香氣ハ北米產ノにほひひば Thuja occidentalis, L. ト伯仲ノ間ニアリ　●**つが**ハひめこまつト同ジク鬱陵島ニノミ生ジ同島山林樹ノ主要分子ヲナシ直徑三尺以上ノ大木ニ乏シカラズつがハ日本ノ特產植物ニシテ此島ハ其分布ノ西極ニ當リ屋久島ハ其南極ニ當レリ　●**いてふ**ハ栽植植物中其分布廣ク濟州島ニハ尚未ダ其移植ヲ見ザレドモ朝鮮本土ニアリテハ其南端ヨリ北ハ平安北道ニ至ル特ニ江界邑內ニアル

モノヽ如キハ合抱ノ老樹ナレドモ年々其末梢ハ寒氣ニ枯死ス朝鮮ニテハやちだも、けやき、ゑんじゅト共ニ最モ大木トナル　●**このてがしは**ハ忠清北道丹陽郡梅浦面ニテハ山中ニ純林ヲ成ス此種ハ自生地未詳ニテ其本土ハ朝鮮ノ如ケレドモ梅浦面ノ自生樣林ノ附近ニハ舊新羅ノ寺院ノ遺跡アリト云ヘバ未ダ朝鮮本來ノ自生品ト謂フヲ得ズ

（未完）

○『斷枝片葉』ニ誘ハレテ

東京植物同好會會員　中尾清太郎

はんげノ意義ニ就テ　半夏ノ名稱ハ上ハ神農本草經ヨリ下ハ本草綱目ニモ出テヰルノデスカラ之ヲ世人ガ聞キ慣レヌ鴉柄杓(からすびしゃく)ナドノ和名デ稱ヘルヨリハイッソ支那的ニ半夏(はんげ)ト呼ンダ方ガ興味ガアリハシナイカト思ヒマス先ヅソレハ本草カラデナク曆カラ見テ「五月、半夏生」ト云フノハドウ云フ譯カト考ヘテミマスノニソレハ彼ノ地ノ五月ノ氣候デハ「半夏生ズ」ルユヱニコノ頃ヲ「半夏生」ト云ッタモノデスカラソノ植物ノ名ハ半夏デ名ノ由來ハ即チ「半夏ニ生ズル草」（半夏トハ蓋シ夏ノ半バノ意）ダカラ半夏ト呼ンダモノト思ヒマス、ソレ故私ハ之ヲ單ニはんげト呼ンダ方ガ其由來ニ對シテオモシロイカト存ジマス　●**椅ノ訓ミ方ニ就テ**　椅ヲいいぎりト訓ンデヰマスガ私ハ自分ノ日本語ノ知識カラいいト云フ綴方ハ無イト思ヒマス大抵ノ植物學書ニハサウナッテヰマスガコレハ恐ラクいひぎり（飯桐）デ古ハ此樹ノ葉ニ飯(いひ)ヲ包ンダカラダト云フ『言海』ノ著者ノ說ニ私ハ贊意ヲ表スルモノデアリマス　●**何首烏ノ事**　日外(イツゾヤ)出版サレタ某農學士ノ「新藥栽培書」（？）ヲ一寸見マスト「烏首何」ト出テヰマシタガ此著者ハ此植物ノ名稱モ又其植物自體ノ事モヨク知ラナイデタヾ引用ノ書物ニ「烏首何」ト誤植ガシテアッタノヲ其儘採用シタノダラウト思ヒマス　●**おほいぬふぐり其他ニ就テ**　議論ヲスレバ長クモナリマスガ私ハ疾クヨリ野草改良ト云フ意見ヲ懷イテヰル者デアリマスソレヲ煎ジ